



大住小学校5年2組の森谷つばさくん(左)と真坂奈緒さん

### 心がひとつになりました

コンピュータのネットワークを使って、市内6つの小学校で合同演奏会を体験。毎日の練習のおかげで、今日は自信を持って歌えました。最後にみんなで「もみじ」の合唱。教室にいながら別の学校の友だちとハーモニーできて、うれしかったです。

おしゃべり

### ステレオ効果にも挑戦

メンバー11人の金管合奏で「浜辺の歌」などおなじみの曲を披露しました。赤れんが館のホールは楽器の音が包み込むように響くので、気持ちよく演奏できました。1階と2階を使ったステレオ効果のある演出で、会場の一体感も味わいました。



赤れんが館コンサートで演奏した秋大ニュー・プラス・アンサンブルの塩谷普さん

かわらばた



日本語弁論大会に参加したミネソタ州立大学のシドニー・ブラウンさん

### 日本語、ムズカシイ!

在日2年未満の人を対象にした日本語スピーチコンテストに参加しました。本番ではとても緊張して、上手にできませんでした。やっぱり、日本語は難しいですね。秋田は自然が美しく、人もすばらしいところ。アメリカの友人にも自慢しています。



# ひと

## 帆船日本丸の船長 岡辺光邦さん

え切れない海の上で過ごす岡辺船長。数も、人々の暮らしに港や海がとけ込んでいたオーストラリアのシドニーの様子に深く感動したそうです。「乗り物の絵本に船があまり出てこないのも、日本の港や船に魅力が足りないからなのでしょう。子どもたちにも親しまれる港が増えて、子どもが船をもっと好きになってほしい」と願っています。

### 帆船は船乗りの基本です

国内最大の帆船「日本丸」が、十月十四日から十九日まで、初めて秋田港に寄港しました。日本丸は、華やかな海上パレードなどから観光船のようなイメージがありますが、じつは船の乗組員を養成する運輸省航海訓練所の練習帆船です。「実習生が将来帆船に乗る機会はずっとあります。帆船を動かすことは船乗りの基本を身につけるための大切な経験です」と、日本丸船長の岡辺光邦さんは語ります。「帆船は、みんなが力を合わせて帆を張らなければなりません。風がなくても進みません。チームワークや自然とのつきあい方を実習生は体で覚えるのです」。

## 市長ホットライン

市政への建設的なご意見を市長に直接お話しください  
フリーダイヤル ☎(0120)681・815  
11月26日(木)午前10時～11時



## 私の私読日記 本の抄々

### — 酒中趣(しゅちゆうしゆ) —

今年の自然界はいささか異常なことが多く、梅雨明けもないままの夏となり、紅葉も何となくいまひとつ冴えない秋を迎えたようであるが、我々「酒徒」にとって秋は嬉しい季節の到来である。



市長  
石川錬治郎

若山牧水の「白玉の歯にしみるとる秋の夜の酒は静かに飲むべかりけり」を引くまでもなく、秋の夜は酒の旨さを楽しみ味わうときである。いつかこの欄で酒の飲み方についての本、酒道入門を取り上げたことがあるが、今回もまた時節柄、酒の本を取り上げたい。

この「酒中趣」の著者は中国文学研究の元京都大学教授であるが、相当の酒好きでもある。

『序』に、「……唐の李白は月下に獨酌して、但夕酒中ノ趣ヲ得ノミ、醒者ノ為ニ傳フル勿ラン」と詠じて、多くを語らなかつた。酒中の趣は、但だ自得すべきで、著書して刊行するなどは以ての外のことである。……と書いてはいるが、どうしてどうして、酒に関しても博覧強記の著者の酒にまつわる滋味とユーモア溢れる話にも多くの酒徒は一層の教示を受けること請け合いです。

目次は「酒茶論」「止酒の詩」「中酒の奇習」「大酒の會」「琥珀の光」「酒の飲み方」「飲酒詩雑感」「蘇東坡と酒」と並んでいて、どの項目をとっても面白く読める。

私が特に感心したのは「酒の飲み方」の項で、酒を何処で飲むべきかを論じて、茶人に「茶室」があるように、酒徒も「酒室」を持つべし、という著者の主張である。「……酒徒は天地を以て室と為す、と大きく出れば、それまでですが、『吾が處を愛する』(陶淵明 家で酒を飲むこと)吾々一派の酒徒に取っては、やはり酒室がほしいものです。さて酒室のしつらひは、趣向を凝らせば限りはないが、要するに戸棚が一つ、瓶懸一つ、酒具食器の類を備へておいて、主人自ら爛をしながら客に勧め得れば足るので、客も自分で爛をしてもよいでせう。酒の爛を台所にまかせておいては、旨い酒は飲めません。また余り台所を煩はすことが、主婦の不平の種ともなり、主人は家で飲むとまづいと云ふ結果ともなるのであります。……更に私の理想を云へば、酒室の隣に湯殿を設くべきであります。先客から順々に一風呂浴びて、夏ならば浴衣、春秋と冬とはどてらで酒室に入り、胡坐をかいて、ゆるゆる酌み交はす。湯上がりの酒は格別旨いことは、酒徒の等しく経験する所でありませう。……」

この著者から酒を飲む「場」についてもいろいろ示唆が有ったことは大きな収穫であった。秋田にも離れて、風呂付きの風雅な「酒室」を所有している人はいないものだろうかと思ったことがある。

「酒中趣」青木正児著 筑摩書房 一九八四年発行

## Book

### 図書館の新刊案内

中央図書館明徳館 ☎(832)9220  
土崎図書館 ☎(845)0572  
新屋図書館 ☎(828)4215



盲導犬グレフ誕生物語  
パトリア・カーチス 文  
メアリー・ブルーム 写真  
ラブラドル・レトリバーの子犬グレフが、一人前の盲導犬になるまでを描きます。母犬や家族との別れ、訓練センターでの厳しい訓練、新しい主人との出会いが綴られています(小学校中学年から)

一般書  
女房が宇宙を飛んだ 向井万起男/著  
偉人たちのお脈拝見 - 英傑の死の謎にせまる - 若林利光/著  
文久三年御蔵島英語単語帳 小林亥一/著

児童書  
でんしゃがくるよ! シャーロット・ウォーク/作 (幼児から)  
だあれもいない日 山中利子/詩 やまわきゆりこ/絵 (小学校低学年から)  
アップルbaum先生にベコニアの花を ポール・ジンデル/著 (中学生から)